

本資料のうち、枠囲みの内容は、営業秘密又は防護上の観点から公開できません。

TK-1-1824 改1

2018年8月28日

工事計画届出書

発室発第 号
平成30年 月 日

経済産業大臣
世耕弘成 殿

原子力規制委員会 殿

住所 東京都千代田区神田美土代町1番地1
氏名 日本原子力発電株式会社
取締役社長 村松 衛

電気事業法第48条第1項の規定により別紙工事計画書のとおり工事の計画を届け出ます。

本資料のうち、枠囲みの内容は、
営業秘密又は防護上の観点から
公開できません。

東海第二発電所

工事計画届出書本文及び添付書類

日本原子力発電株式会社

東海第二発電所
工事計画届出書本文及び添付書類

目 録

- I 工事計画書
- II 工事工程表
- III 変更を必要とする理由を記載した書類
- IV 核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第 43 条の 3 の 9 第 1 項の認可の申請をした年月日を記載した書類
- V 添付書類

I 工事計画書

I 工事計画書

一 発電所

1. 発電所の名称及び位置

名 称 東海第二発電所

位 置 茨城県那珂郡東海村大字白方1番の1

2. 発電所の出力及び周波数

出 力 1,100,000 kW

周 波 数 50 Hz

(一) 原子力設備

4 燃料設備

沸騰水型原子力原子力発電設備に係るものにあつては、次の事項

4 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備に係る次の事項

(5) 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 ^{*1} (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 ^{*1} (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
燃 料 プ ー ル 冷 却 浄 化 系	*2 スキマサージタンク ～ 代替燃料プール冷却系配管 分岐点	1.38 ^{*3}	66	267.4	9.3 ^{*1}	STPT42	*4 スキマサージタンク ～ 代替燃料プール冷却 系配管分岐点	変更なし	変更なし 80 ^{*5}	変更なし ^{*6}		
								1.38 ^{*5}	80 ^{*5}	267.4 ^{*7} /267.4 ^{*7} /267.4 ^{*7}	9.3 ^{*1, *7} /9.3 ^{*1, *7} /9.3 ^{*1, *7}	STPT42 ^{*7}
	*2 代替燃料プール冷却系配管 分岐点 ～ 弁 G41-F004 及び弁 G41-F016	1.38 ^{*3}	66	267.4	9.3 ^{*1}	STPT410 ^{*8}	燃 料 プ ー ル 冷 却 浄 化 系	変更なし				
				216.3	8.2 ^{*1}	STPT42						
	*2 弁 G41-F004 ～ 燃料プール冷却浄化系ポンプ	1.38 ^{*3}	66	216.3	8.2 ^{*1}	STPT42		変更なし				
				267.4	9.3 ^{*1}	STPT42						
	*15 燃料プール冷却浄化系ポンプ ～ 燃料プール冷却浄化系 熱交換器	1.38 ^{*3}	66	165.2	7.1 ^{*1}	STPT42		変更なし				
				89.1	5.5 ^{*1}	STPT42						
	*9 燃料プール冷却浄化系 熱交換器 ～ 弁 G41-20A, B	1.38 ^{*3}	66	165.2	7.1 ^{*1}	STPT42		変更なし				
				216.3	8.2 ^{*1}	STPT42						
*10 弁 G41-20A, B ～ フィルタ脱塩器	1.38 ^{*3}	94	165.2	7.1 ^{*1}	STPT42	変更なし						

(続き)

		前				後							
変		更		前		変		更		後			
名	称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 ^{*1} (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 ^{*1} (mm)	厚 さ (mm)	材 料
燃 料 プ ー ル 冷 却 系	*11 フィルタ脱塩器 ～ 弁 G41-102A, B	1.38 ^{*3}	94	165.2	7.1 ^{*1}	SUS304TP	燃 料 プ ー ル 冷 却 系	変更なし					
				139.8	6.6 ^{*1}	SUS304TP		変更なし					
	*12 弁 G41-102A, B ～ 弁 G41-F011	1.38 ^{*3}	66	165.2	7.1 ^{*1}	SUS304TP		変更なし					
				165.2	3.4 ^{*1}	SUS304TP		変更なし					
				216.3	4.0 ^{*1}	SUS304TP		変更なし					
	*12 フィルタ脱塩器出口原子炉 ウェル向配管分岐点 ～ 原子炉ウェル	1.38 ^{*3}	66	216.3	4.0 ^{*1}	SUS304TP		— ^{*13}					
				114.3	3.0 ^{*1}	SUS304TP		— ^{*13}					
	*12 弁 G41-F011 ～ 代替燃料プール冷却系配管 合流点	1.38 ^{*3}	66	216.3	4.0 ^{*1}	SUS304TP		変更なし	変更なし				
				—				変更なし	変更なし	216.3	8.2 ^{*1}	SUS304TP	
	*12 代替燃料プール冷却系配管 合流点 ～ 残留熱除去系及び燃料プール 冷却系配管合流点	—			—			*4 代替燃料プール冷却 系配管合流点 ～ 残留熱除去系及び燃 料プール冷却系配管 合流点	1.38 ^{*5}	80 ^{*5}	216.3 /216.3 /165.2	8.2 ^{*1} /8.2 ^{*1} /7.1 ^{*1}	SUS304TP
		1.38 ^{*3}	66	216.3	4.0 ^{*1}	SUS304TP		変更なし	変更なし 80 ^{*5}	変更なし			
	*12 弁 G41-F036 ～ 残留熱除去系及び燃料プール 冷却系配管合流点	1.38 ^{*3}	66	267.4	9.3 ^{*1}	SUS304TP		変更なし					
267.4				4.0 ^{*1}	SUS304TP	変更なし							

(続き)

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 ^{*1} (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外 径 ^{*1} (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
燃 料 プール 冷却 浄 化 系	—					燃 料 プール 冷却 浄 化 系	1.38 ^{*5}	80 ^{*5}	267.4 ^{*7} /267.4 ^{*7} /216.3 ^{*7}	9.3 ^{*1, *7} /9.3 ^{*1, *7} /8.2 ^{*1, *7}	SUS304TP ^{*7}	
	1.38 ^{*3}	66	267.4	4.0 ^{*1}	SUS304TP		変更なし	変更なし 80 ^{*5}	変更なし			
	*12 残留熱除去系及び燃料プール冷却系配管合流点 ～ 使用済燃料プール						*4 残留熱除去系及び燃料プール冷却系配管合流点 ～ 使用済燃料プール	1.38 ^{*5}	80 ^{*5}	267.4 ^{*7, *14}	9.3 ^{*1, *7, *14}	SUS304TP ^{*7, *14}
	—									267.4 ^{*7} /267.4 ^{*7} /165.2 ^{*7}	9.3 ^{*1, *7} /9.3 ^{*1, *7} /7.1 ^{*1, *7}	SUS304TP ^{*7}
	1.38 ^{*3}	66	165.2	3.4 ^{*1}	SUS304TP					267.4 ^{*7} /165.2 ^{*7}	3.6 (4.0 ^{*1}) ^{*7} /3.1 (3.4 ^{*1}) ^{*7}	SUS304 ^{*7}
	—							変更なし	変更なし 80 ^{*5}	変更なし		
—					1.38 ^{*5}	80 ^{*5}	165.2 ^{*7, *14}	7.1 ^{*1, *7, *14}	SUS304TP ^{*7, *14}			
—							165.2 ^{*7}	3.1 (3.4 ^{*1}) ^{*7}	SUS304 ^{*7}			

注記 *1：公称値を示す。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「スキーマサージタンクよりポンプ吸込口および残留熱除去系へ」と記載。

*3：S I 単位に換算したもの。

*4：使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（代替燃料プール冷却系）と兼用する。

*5：重大事故等時における使用時の値を示す。

*6：エルボにあつては、管と同等以上の厚さのものを選定。

*7：本設備は既存の設備である。

*8：STPT42 同等材（STPT410）への取り替えを実施する。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「熱交換器出口よりフィルタ脱塩装置まで」と記載。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「フィルタ脱塩器入口管 燃料プール熱交換器よりフィルタ脱塩器まで」と記載。

*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「フィルタ脱塩器戻り管 フィルタ脱塩器より燃料プールへ」と記載。

*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「フィルタ脱塩装置出口より原子炉ウェル及び燃料貯蔵プールまで及び残留熱除去系より燃料貯蔵プールへ」と記載。

*13：当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。

*14：エルボを示す。

*15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ吐出口より熱交換器入口まで」と記載。

2 気体、液体又は固体廃棄物貯蔵設備に係る次の事項（機器がある処理能力を発揮することを目的として一体となった装置を構成する場合は、その装置の名称、種類、処理能力及び個数を付記すること。）

(4) 容器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、主要寸法、材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

			変更前	変更後
名 称			プリコートタンク	撤去
種 類	—		たて置円筒形* ¹	
容 量	m ³ /個		<input type="text"/> (5.3* ²)	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭* ³	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径* ⁴	mm	1800* ²	
	胴 板 厚 さ* ⁵	mm	<input type="text"/> (6* ²)	
	鏡 板 厚 さ* ⁷	mm	<input type="text"/> (6* ²)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	1800* ² , * ⁸ (鏡板中央部内半径)	
			180* ² , * ⁸ (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm	4.5* ² , * ⁸	
高 さ	mm	2659.5* ² , * ⁹		
材 料	胴 板 * ¹⁰	—	SM41A* ¹¹	
	鏡 板	—	SM41A* ¹¹	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年8月

2日付け建建発第61号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-6図 プリコートタンク

ク構造図」による。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「2300」と記載。記載内容は、昭和49年8月2日付け建建発第61号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-6図 プリコートタンク構造図」による。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称				格納容器機器ドレンサンプ
種 類	—			たて置環状扇形
容 量	m ³ /個			0.4 以上 (0.4*)
最 高 使 用 圧 力	MPa			静水頭
最 高 使 用 温 度	℃			105
主 要 寸 法	弧 の 長 さ (内 側)	mm		2142*
	弧 の 長 さ (外 側)	mm		2344*
	幅	mm		237*
	高 さ	mm		1410*
	胴 板 厚 さ	mm		<input type="text"/> (12.0*)
	底 板 厚 さ	mm		<input type="text"/> (12.0*)
	平 板 厚 さ	mm		12.0*
	管 台 外 径 (廃 液 出 口)	mm		89.1*
	管 台 厚 さ (廃 液 出 口)	mm		<input type="text"/> (5.5*)
材 料	胴 板	—		SUS304
	底 板	—		SUS304
個 数	—			1
漏えい防止のための制御方法			—	—

注記 * : 公称値を示す。

			変更前	変更後
名 称			廃液中和スラッジ受タンク	
種 類	—		たて置円筒形*1	
容 量	m ³ /個		[] (3.8*2)	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭*3	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径*4	mm	1600*2	
	胴 板 厚 さ*5	mm	[] (6*2)	
	鏡 板 厚 さ*7	mm	[] (8*2)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	1600*2, *8 (鏡板中央部内半径)	
			160*2, *8 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm	4*2, *9	
	高 さ	mm	2422*2, *10	
材 料	胴 板*11	—	SUS304	
	鏡 板	—	SUS304	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

撤去

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-6 廃液中和スラッジ受タンク」による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年4月25日付け建建発第14号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-6 廃液中和スラッジ受タンク」による。

- *9 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-20図 廃液中和スラッジ受タンク構造図」による。
- *10 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「2100」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-20図 廃液中和スラッジ受タンク構造図」による。
- *11 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

			変更前	変更後
名 称			濃縮廃液計量タンク	
種 類	—		たて置円筒形*1	
容 量	m ³ /個		<input type="text"/>	(0.32*2)
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭*3	
最 高 使 用 温 度	°C		120	
主 要 寸 法	胴 内 径*4	mm	700*2	
	胴 板 厚 さ*5	mm	<input type="text"/>	(5*2)
	鏡 板 厚 さ*7	mm	<input type="text"/>	(5*2)
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	700*2, *8 (鏡板中央部内半径)	
			70*2, *8 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm	4*2, *8	
	出 口 管 台 外 径	mm	48.6*2, *6	
	出 口 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/>	(3.7*2, *6)
	入 口 管 台 外 径	mm	48.6*2, *6	
	入 口 管 台 厚 さ	mm	3.7*2, *6	
高 さ	mm	1096.5*2, *9		
材 料	胴 板*10	—	SUS304	
	鏡 板	—	SUS304	
個 数	—	1		
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—	—		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-22図 濃縮廃液計量タンク構造図」による。

- *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「950」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-22図 濃縮廃液計量タンク構造図」による。
- *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

		変更前	変更後
名 称		ミキサー洗浄タンク B	
種 類	—	たて置角形*1	
容 量	m ³ /個	[] (0.6*2)	
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*3	
最 高 使 用 温 度	℃	65	
主 要 寸 法	た て*4	mm	912*2
	横 *5	mm	1812*2
	胴 板 厚 さ*6	mm	[] (6*2)
	底 板 厚 さ*6	mm	[] (6*2)
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm	9*2, *7
	高 さ	mm	565*2
材 料	胴 板*8	—	SM41A
	底 板*8	—	SM41A
個 数	—	1	
漏 え い 防 止 の ため の 制 御 方 法	—	—	

撤去

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「角形（底置）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「巾」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「長さ」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

			変更前	変更後
名 称			バッチタンク	撤去
種 類	—	たて置角形*1		
容 量	m ³ /個	<input type="text"/> (0.21*2, *3)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*4		
最 高 使 用 温 度	°C	65		
主 要 寸 法	た て	mm	580*2	
	横	mm	580*2	
	胴 板 厚 さ*5	mm	<input type="text"/> (6*2)	
	底 板 厚 さ*5	mm	<input type="text"/> (6*2)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ*5	mm	6*2	
	高 さ	mm	900*2	
材 料	胴 板*7	—	SM41A	
	底 板*7	—	SM41A	
個 数	—	1		
漏 え い 防 止 の ため の 制 御 方 法	—	—		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「角形」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2100」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

		変更前	変更後	
名 称		スラッジ計量ホッパー	撤去	
種 類	—	たて置円すい形*1		
容 量	m ³ /個	<input type="text"/> (0.3*2)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*3		
最 高 使 用 温 度	℃	65		
主 要 寸 法	胴 内 径*4	mm		850*2
	胴 板 厚 さ*5	mm		<input type="text"/> (5*2)
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm		5*2, *7
	高 さ	mm		1400*2
材 料	胴 板*8	—		SUS304
個 数	—	1		
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—	—		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円すい形」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-21図 スラッジ計量ホッパー構造図 (D506)」による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

			変更前	変更後
名 称			チャージホッパー	撤去
種 類	—		四角すいたて形*1	
容 量	m ³ /個		<input type="text"/> (0.5*2)	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭*3	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	た て (内 寸 法) *4	mm	1054*2	
	横 (内 寸 法) *5	mm	714*2	
	胴 板 厚 さ*6	mm	<input type="text"/> (8*2)	
	高 さ	mm	2000*2	
材 料	胴 板*8	—	SUS304	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「四角スイ縦形」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「縦」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-18図 アウトドラムミキサー構造図（その2）（チャージホッパー構造図）」による。

			変更前	変更後
名 称			苛性溶液タンク	
種 類	—		たて置円筒形*1	
容 量	m ³ /個		<input type="text"/>	(0.19*2)
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭*3	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径*4	mm	600*2	
	胴 板 厚 さ*5	mm	<input type="text"/>	(6*2)
	鏡 板 厚 さ*7	mm	<input type="text"/>	(6*2)
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	600*2, *8 (鏡板中央部内半径)	
			60*2, *8 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm	4.5*2, *8	
高 さ	mm	998*2, *9		
材 料	胴 板*10	—	SM41A	
	鏡 板	—	SM41A	
個 数	—		1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法	—		—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-23図 苛性溶液タンク構造図」による。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「870」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-23図 苛性溶液タンク構造図」による。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

		変更前	変更後	
名 称		セメントサイロ	撤去	
種 類	—	たて置円筒形*1		
容 量	m ³ /個	<input type="text"/> (14.5*2)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*3		
最 高 使 用 温 度	℃	65		
主 要 寸 法	洞 内 径*4	mm		2700*2
	洞 板 厚 さ*5	mm		<input type="text"/> (6*2)
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm		6*2, *6
	高 さ*7	mm		4650*2, *8
材 料	洞 板*9	—		SM41A
個 数	—	1		
漏えい防止のための制御方法		—	—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には、サポートからセメントサイロ頂部までの高さである「6600」と記載。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届出した工事計画の添付図面「第3-14図 セメントサイロ構造図（D704）」による。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

*10：記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届出した工事計画の添付図面「第3-14図 セメントサイロ構造図（D704）」による。

		変更前	変更後	
名 称		セメント計量ホッパー	撤去	
種 類	—	たて置円すい形*1		
容 量	m ³ /個	<input type="text"/> (0.7*2)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*3		
最 高 使 用 温 度	°C	65		
主 要 寸 法	洞 内 径*4	mm		1100*2
	洞 板 厚 さ*5	mm		<input type="text"/> (6*2)
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm		6*2, *7
	高 さ	mm		1800*2
材 料	洞 板*8	—		SM41A
個 数		—		1
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法		—	—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円すい形」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-15図 セメント計量ホッパー構造図 (D1702)」による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「本体」と記載。

(7) 貯蔵槽の名称，種類，容量，主要寸法，材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

			変 更 前	変 更 後	
名 称			—	格納容器床ドレンサンプ	
種 類		—		ライニング槽	
容 量		m ³ /個		26*	
主要寸法	内 径			mm	5872*
	深 さ			mm	1730*
	ライニング材厚さ			mm	<input type="text" value="4.0"/> (4.0*)
材 料	ライニング材			—	SUS304
個 数		—			1
漏えい防止のための制御方法				—	—

注記 *：公称値を示す。

- (8) ろ過装置の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数

		変更前	変更後	
名称		廃液フィルタ		
種類	—	たて置円筒形*1		
容量*2	m ³ /h/個	<input type="text"/>	(50*2, *3)	
最高使用圧力	MPa	1.32*4		
最高使用温度	℃	90		
主要寸法	胴内径*5	mm	1100*3	
	胴板厚さ*6	mm	<input type="text"/> (14*3)	
	鏡板厚さ*8	mm	<input type="text"/> (14*3)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1100*3, *7 (鏡板長径)	
			275*3, *7 (鏡板短径の2分の1)	
	フランジ厚さ	mm	<input type="text"/> (50*3, *7)	
	水入口管台外径	mm	216.3*3, *7	
	水入口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (8.2*3, *7)	
	水出口管台外径	mm	139.8*3, *7	
	水出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (6.6*3, *7)	
高さ	mm	3584*3		
材料	胴板*9	—	SM41A*10	
	鏡板	—	SM41A*10	
個数	—	2		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形圧力プリコート式（四脚支持）」と記載。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「処理流量（最大） 50m³/h（68.1m³/h）」と記載。

*3：公称値を示す。

*4：S I 単位に換算したもの。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*7：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち，「Ⅲ-1-2-1 廃液フィルタおよび床ドレンフィルタ」

による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

		変更前	変更後		
名 称		床ドレンフィルタ			
種 類	—	たて置円筒形*1			
容 量*2	m ³ /h/個	<input type="text"/> (50*2, *3)	撤去		
最 高 使 用 圧 力	MPa	1.32*4			
最 高 使 用 温 度	℃	90			
主 要 寸 法	胴 内 径*5	mm		1100*3	
	胴 板 厚 さ*6	mm		<input type="text"/> (14*3)	
	鏡 板 厚 さ*8	mm		<input type="text"/> (14*3)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm		1100*3, *7 (鏡板長径)	
				275*3, *7 (鏡板短径の2分の1)	
	フ ラ ン ジ 厚 さ	mm		<input type="text"/> (50*3, *7)	
	水 入 口 管 台 外 径	mm		216.3*3, *7	
	水 入 口 管 台 厚 さ	mm		<input type="text"/> (8.2*3, *7)	
	水 出 口 管 台 外 径	mm		139.8*3, *7	
水 出 口 管 台 厚 さ	mm	<input type="text"/> (6.6*3, *7)			
高 さ	mm	3584*3			
材 料	胴 板*9	—		SM41A*10	
	鏡 板	—		SM41A*10	
個 数	—	1			

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形圧カプリコート式（四脚支持）」と記載。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「処理流量（最大） 50m³/h (68.1 m³/h)」と記載。

*3：公称値を示す。

*4：S I 単位に換算したもの。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-1 廃液フィルタおよび床ドレンフィルタ」による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SM41A 」と記載。

(10) 主配管の名称, 最高使用圧力, 最高使用温度, 外径, 厚さ及び材料

変 更 前						変 更 後											
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料						
—						*2 格納容器機器ドレンサンブ ~ 格納容器機器ドレンサンブ 出口配管分岐点											
*2 格納容器機器ドレンサンブ 出口配管分岐点 ~ 格納容器機器ドレン サンブスリット						*4 格納容器機器ドレンサンブ 出口配管分岐点 ~ 格納容器機器ドレン サンブスリット											
												—					
*2 格納容器機器ドレン サンブスリット ~ 格納容器機器ドレン 配管分岐点						*4 格納容器機器ドレン サンブスリット ~ 格納容器機器ドレン 配管分岐点											
												89.1 *25 5.5*1, *25 SUS304TP*25					
												89.1 7.6*1, *6 SUS316TP					
*2 格納容器機器ドレン 配管分岐点 ~ 原子炉格納容器						*4 格納容器機器ドレン サンブスリット ~ 格納容器機器ドレン 配管分岐点											
												—					
*2 格納容器機器ドレン 配管分岐点 ~ 原子炉格納容器						変更なし											
*2 原子炉格納容器 ~ 弁 G13-F132						*4 格納容器機器ドレン サンブスリット ~ 格納容器機器ドレン 配管分岐点											
												89.1 *7, *8 7.6*1, *7, *8 STPT42*7, *8					
*2 原子炉格納容器 ~ 弁 G13-F132						変更なし											
*2 弁 G13-F132 ~ 原子炉棟機器ドレンサンブ						*4 格納容器機器ドレン サンブスリット ~ 格納容器機器ドレン 配管分岐点											
												89.1 5.5*1 STPT42					
*2 弁 G13-F132 ~ 原子炉棟機器ドレンサンブ						変更なし											
*9 原子炉棟機器ドレン サンブポンプ ~ 廃液収集タンク						*4 格納容器機器ドレン サンブスリット ~ 格納容器機器ドレン 配管分岐点											
												89.1 *25 5.5*1, *25 STPT410*25					
												76.3 5.2*1 STPT42					
												89.1 5.5*1 STPT42					
*9 原子炉棟機器ドレン サンブポンプ ~ 廃液収集タンク						*4 格納容器機器ドレン サンブスリット ~ 格納容器機器ドレン 配管分岐点											
												114.3 6.0*1 STPT42					
												114.3 *25 6.0*1, *25 STPT410*25					
*9 原子炉棟機器ドレン サンブポンプ ~ 廃液収集タンク						変更なし											

(続き)

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	
機器ドレン処理系	*10 タービン建屋機器ドレン サンポンプ ～ 廃液収集タンク	1.03*3	65	76.3	5.2*1	STPT42	機器ドレン処理系	変更なし				
				89.1	5.5*1	STPT42						
				114.3	6.0*1	STPT42						
	*11 廃棄物処理棟機器ドレン サンポンプ ～ 廃液収集タンク	1.03*3	65	48.6	5.1*1	STPT42						変更なし
				76.3	5.2*1	STPT42						
	廃液収集タンク ～ 廃液収集ポンプ	1.03*3	65	114.3	6.0*1	STPT42						変更なし
	*12 廃液収集ポンプ ～ 廃液収集ポンプ吐出管合流点	1.42*3	65	114.3	6.0*1	STPT42						変更なし
				114.3*25	6.0*1, *25	STPT410*25						
		1.32*3	90	114.3	6.0*1	STPT42						撤去
				139.8	6.6*1	STPT42						
	サージタンク A ～ サージポンプ A	1.03*3	65	114.3	6.0*1	STPT42						変更なし

(続き)

		変 更 前					変 更 後													
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料							
機器 ドレン 処理系	サージポンプ A ～ 廃液収集ポンプ吐出管	1.42*3	65	114.3	6.0*1	STPT42	変更なし													
	サージタンク B ～ サージポンプ B	1.03*3	65	114.3	6.0*1	STPT42	変更なし													
	サージポンプ B ～ 床ドレン収集ポンプ吐出管	1.42*3	65	114.3	6.0*1	STPT42	変更なし													
				114.3*25	6.0*1, *25	STPT410*25														
	*13 廃液脱塩器入口管合流点 ～ 廃液脱塩器	1.32*3	90	139.8	5.0*1	SUS304TP	撤去													
				114.3	4.0*1	SUS304TP														
	*14 廃液脱塩器入口管合流点 ～ 床ドレン収集ポンプ吐出管 合流点	1.32*3	90	114.3	4.0*1	SUS304TP	変更なし													
				—																
				1.32*3	65	114.3							4.0*1	SUS304TP	撤去					
				—																
*15 廃液脱塩器 ～ 廃液サンプルタンク	1.32*3	65	114.3	4.0*1	SUS304TP	変更なし														
			1.03*3	65	114.3							4.0*1	SUS304TP							
*16 廃液サンプルタンク ～ 廃液サンプルポンプ	1.03*3	65	114.3	4.0*1	SUS304TP	変更なし														

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料
機器ドレン処理系	*17 廃液サンプルポンプ ～ 放射性廃棄物処理系配管取合点 (補給水系)	1.03*3	65	114.3	4.0*1	SUS304TP	変更なし				
	凝縮水収集タンク ～ 凝縮水収集ポンプ	1.03*3	65	114.3	4.0*1	SUS304TP	変更なし				
	*24 凝縮水収集ポンプ ～ 廃液収集ポンプ吐出管合流点	1.07*3	65	114.3	4.0*1	SUS304TP	変更なし				
		1.42*3	65	114.3	6.0*1	STPT42					
	凝縮水収集ポンプ ～ 廃液収集ポンプ吐出管合流点	1.07*3	65	114.3*25	6.0*1, *25	STPT410*25	変更なし				
				60.5	5.5*1	STPT42					
	凝集装置供給タンク ～ 凝集装置供給ポンプ	1.03*3	65	60.5	5.5*1	STPT42	変更なし				
				60.5*25	5.5*1, *25	STPT410*25					
	凝集装置供給ポンプ ～ 凝集沈澱装置	1.07*3	65	60.5	5.5*1	STPT42	変更なし				
				60.5	5.5*1	STPT42					
48.6				5.1*1	STPT42						
	1.03*3	65	48.6	3.7*1	SUS304TP						
						機器ドレン処理系					

(続き)

変 更 前						変 更 後												
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料							
機器ドレン処理系	凝集沈澱装置 ～ 廃液収集タンク	1.03*3	65	89.1	4.0*1	SUS304TP	変更なし											
				89.1	5.5*1	STPT42												
				89.1*25	5.5*1, *25	STPT410*25												
	*18 廃液収集ポンプ吐出管合流点 ～ 電磁ろ過器供給タンク入口管	1.32*3	90	114.3	6.0*1	STPT42						変更なし	撤去	1.42	65	114.3	6.0*1	STPT410
				—														
	電磁ろ過器供給タンク入口管 分岐点 ～ 廃液フィルタ B 入口管	1.32*3	65	114.3	6.0*1	STPT42						変更なし	撤去	1.42	65	114.3	6.0*1	STPT410
	廃棄物処理建屋機器ドレン サンポンプ A ～ 電磁ろ過器供給タンク	1.03*3	65	60.5	5.5*1	STPT42						変更なし	撤去	1.42	65	114.3	6.0*1	STPT410
				48.6	5.1*1	STPT42												
				76.3	5.2*1	STPT42												
76.3				5.2*1	SUS304TP													
廃棄物処理建屋機器ドレン サンポンプ B ～ 廃棄物処理建屋機器ドレン サンポンプ A 出口管合流点	1.03*3	65	60.5	5.5*1	STPT42	変更なし	撤去	1.42	65	114.3	6.0*1	STPT410						
			48.6	5.1*1	STPT42													
*19 弁 NR24-F007A ～ 電磁ろ過器供給タンク	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS316TP	変更なし	撤去	1.42	65	114.3	6.0*1	STPT410						
					静水頭								65	60.5	3.9*1	SUS316TP		
*20 弁 NR24-F007B ～ 使用済樹脂貯蔵タンク B デカント水出口管合流点	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS316TP	変更なし	撤去	1.42	65	114.3	6.0*1	STPT410						

(続き)

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	
機器ドレン処理系	電磁ろ過器供給タンク ～ 機器ドレン樹脂分離器 A	静水頭	65	114.3	6.0*1	SUS304TP	機器ドレン処理系	変更なし				
				114.3	6.0*1	STPT42						
				89.1	5.5*1	STPT42						
				76.3	5.2*1	STPT42						
		1.32*3	65	48.6	5.1*1	STPT42						
				76.3	5.2*1	STPT42						
	機器ドレン樹脂分離器 A ～ 電磁ろ過器 A	1.32*3	65	48.6	5.1*1	STPT42						
				76.3	5.2*1	STPT42						
				165.2	7.1*1	STPT42						
	電磁ろ過器供給タンク出口管 分岐点 ～ 機器ドレン樹脂分離器 B	静水頭	65	89.1	5.5*1	STPT42						
76.3				5.2*1	STPT42							
1.32*3		65	48.6	5.1*1	STPT42							
			76.3	5.2*1	STPT42							
機器ドレン樹脂分離器 B ～ 電磁ろ過器 B	1.32*3	65	48.6	5.1*1	STPT42							
			76.3	5.2*1	STPT42							
			165.2	7.1*1	STPT42							
電磁ろ過器 A ～ 超ろ過器供給タンク	1.32*3	65	165.2	7.1*1	SUS304TP							
			165.2	7.1*1	STPT42							
			60.5	5.5*1	STPT42							
			76.3	5.2*1	STPT42							
			89.1	5.5*1	STPT42							
電磁ろ過器 B ～ 電磁ろ過器 A 出口管合流点	1.32*3	65	165.2	7.1*1	SUS304TP							
			165.2	7.1*1	STPT42							
			60.5	5.5*1	STPT42							
			76.3	5.2*1	STPT42							

(続き)

変 更 前						変 更 後							
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料		
機器ドレン処理系	超ろ過器供給タンク ～ 超ろ過器 A	静水頭	65	355.6	11.1*1	SUS304TP	機器ドレン処理系	変更なし					
				355.6	11.1*1	STPT42							
				318.5	10.3*1	STPT42							
				216.3	8.2*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
		1.32*3	65	89.1	5.5*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
		0.49*3	65	139.8	6.6*1	STPT42							
				508.0	□ (9.0*1)	SM41A							
				34.0	4.5*1	STPT42							
	超ろ過器供給ポンプ A 入口管 分岐点 ～ 超ろ過器 B	静水頭	65	139.8	6.6*1	STPT42							変更なし
				89.1	5.5*1	STPT42							
1.32*3		65	139.8	6.6*1	STPT42								
			139.8	6.6*1	STPT42								
0.49*3		65	139.8	6.6*1	STPT42								
			508.0	□ (9.0*1)	SM41A								
34.0	4.5*1	STPT42											
超ろ過器供給ポンプ A 入口管 分岐点 ～ 超ろ過器 C	静水頭	65	139.8	6.6*1	STPT42	変更なし							
			89.1	5.5*1	STPT42								
	1.32*3	65	139.8	6.6*1	STPT42								
			139.8	6.6*1	STPT42								
	0.49*3	65	139.8	6.6*1	STPT42								
			508.0	□ (9.0*1)	SM41A								
34.0	4.5*1	STPT42											

(続き)

		変 更 前					変 更 後						
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料
機器ドレン処理系	超ろ過器供給ポンプ A 入口管 分岐点 ～ 超ろ過器 D	静水頭	65	267.4	9.3*1	STPT42	機器ドレン処理系	変更なし					
				139.8	6.6*1	STPT42							
		1.32*3	65	89.1	5.5*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
		0.49*3	65	139.8	6.6*1	STPT42							
				508.0	9.0*1	SM41A							
	34.0	4.5*1	STPT42										
	超ろ過器供給ポンプ D 入口管 分岐点 ～ 超ろ過器 E	静水頭	65	267.4	9.3*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
		1.32*3	65	89.1	5.5*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
		0.49*3	65	139.8	6.6*1	STPT42							
				508.0	9.0*1	SM41A							
	34.0	4.5*1	STPT42										
	超ろ過器供給ポンプ E 入口管 分岐点 ～ 超ろ過器 F	静水頭	65	139.8	6.6*1	STPT42							
				89.1	5.5*1	STPT42							
		1.32*3	65	139.8	6.6*1	STPT42							
				139.8	6.6*1	STPT42							
		0.49*3	65	508.0	9.0*1	SM41A							
				34.0	4.5*1	STPT42							
超ろ過器 A ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42								
			89.1	5.5*1	STPT42								
			139.8	6.6*1	STPT42								
			165.2	7.1*1	STPT42								

(続き)

変 更 前						変 更 後																																										
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料																																					
機器ドレン処理系	超ろ過器B ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42	機器ドレン処理系	変更なし																																								
				89.1	5.5*1	STPT42																																										
				139.8	6.6*1	STPT42																																										
				165.2	7.1*1	STPT42																																										
	超ろ過器C ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42							変更なし																																			
				89.1	5.5*1	STPT42																																										
				139.8	6.6*1	STPT42																																										
				165.2	7.1*1	STPT42																																										
	超ろ過器D ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42													変更なし																													
				89.1	5.5*1	STPT42																																										
				139.8	6.6*1	STPT42																																										
				165.2	7.1*1	STPT42																																										
	超ろ過器E ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42																			変更なし																							
				89.1	5.5*1	STPT42																																										
				139.8	6.6*1	STPT42																																										
				165.2	7.1*1	STPT42																																										
	超ろ過器F ～ 超ろ過器供給タンク	0.49*3	65	34.0	4.5*1	STPT42																									変更なし																	
				89.1	5.5*1	STPT42																																										
				139.8	6.6*1	STPT42																																										
				165.2	7.1*1	STPT42																																										
	超ろ過器A ～ 超ろ過器出口集合管	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP																															変更なし											
				139.8	6.6*1	SUS304TP																																										
	超ろ過器B ～ 超ろ過器出口集合管	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP																																					変更なし					
				139.8	6.6*1	SUS304TP																																										
超ろ過器C ～ 超ろ過器出口集合管	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP	変更なし																																										
			139.8	6.6*1	SUS304TP																																											

(続き)

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	
機器ドレン処理系	超ろ過器 D ～ 超ろ過器出口集合管	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP	機器ドレン処理系	変更なし				
	139.8			6.6*1	SUS304TP	変更なし						
	超ろ過器 E ～ 超ろ過器出口集合管	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP		変更なし				
	139.8			6.6*1	SUS304TP	変更なし						
	超ろ過器 F ～ 超ろ過器出口集合管	静水頭	65	76.3	5.2*1	SUS304TP		変更なし				
	139.8			6.6*1	SUS304TP	変更なし						
	超ろ過器出口集合管 ～ 機器ドレン処理水タンク A	静水頭	65	216.3	8.2*1	SUS304TP		変更なし				
	139.8			6.6*1	SUS304TP	変更なし						
	*22 弁 NR21-F021 ～ 機器ドレン処理水タンク B	静水頭	65	139.8	6.6*1	SUS304TP		変更なし				
	*23 機器ドレン処理水タンク A ～ 廃液脱塩器入口管合流点							静水頭	65	114.3	6.0*1	SUS304TP
		89.1	5.5*1	SUS304TP	撤去							
		1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS304TP		撤去				
				114.3	6.0*1	SUS304TP		撤去				
	90	114.3	6.0*1	SUS304TP	撤去							
廃液フィルタ B 出口管 ～ 機器ドレン処理水ポンプ出口管 合流点	1.32*3	90	114.3	6.0*1	SUS304TP	撤去						
機器ドレン処理水タンク B ～ 機器ドレン処理水タンク A 出口管合流点						静水頭	65	114.3	6.0*1	SUS304TP	変更なし	
	89.1	5.5*1	SUS304TP	変更なし								
	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS304TP	変更なし						
			114.3	6.0*1	SUS304TP	変更なし						

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料
機器ドレン処理系	機器ドレン樹脂分離器 A ～ 使用済樹脂貯蔵タンク B	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS304TP	変更なし				
	機器ドレン樹脂分離器 B ～ 機器ドレン樹脂分離器 A 出口管合流点	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS304TP	変更なし				
	*26 使用済樹脂貯蔵タンク B 入口管分岐点 ～ 使用済樹脂貯蔵タンク C (機器ドレン樹脂分離器側)	1.32*3	65	60.5	3.9*1	SUS304TP	変更なし				
	電磁ろ過器 A 入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク A	1.32*3	65	165.2	7.1*1	STPT42	変更なし				
	電磁ろ過器 B 入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク A 入口管合流点	1.32*3	65	165.2	7.1*1	STPT42	変更なし				
	クラッドスラリタンク A 入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク B (電磁ろ過器側)	1.32*3	65	165.2	7.1*1	STPT42	変更なし				
	超ろ過器供給タンク出口管 分岐点 ～ クラッドスラリタンク A 入口管合流点	静水頭	65	60.5	5.5*1	STPT42	変更なし				
		1.32*3	65	60.5	5.5*1	STPT42					
						機器ドレン処理系					

(続き)

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料	
機器 ドレン 処理系	超ろ過器供給ポンプ A 入口管分岐点 ～ 電磁ろ過器 A 入口管合流点	静水頭	65	114.3	6.0*1	STPT42	機器 ドレン 処理系	変更なし				
			89.1	5.5*1	STPT42							
		1.32*3	65	60.5	5.5*1	STPT42						
				89.1	5.5*1	STPT42						
				76.3	5.2*1	STPT42						
	電磁ろ過器循環供給ポンプ 出口管分岐点 ～ 電磁ろ過器 B 入口管合流点	1.32*3	65	89.1	5.5*1	STPT42						変更なし
				76.3	5.2*1	STPT42						
	クラッドスラリタンク A ～ クラッドスラリ上澄水受タンク	静水頭	65	60.5	3.9*1	SUS316LTP						変更なし
				クラッドスラリタンク B ～ クラッドスラリタンク A 出口管合流点	静水頭	65						
	クラッドスラリ上澄水受タンク ～ クラッドスラリ濃縮器加熱器	静水頭	65	89.1	5.5*1	SUS304TP						変更なし
65				60.5	3.9*1	SUS304TP						
		76.3	5.2*1	SUS304TP								
		21.7	2.8*1	SUS304TP								
0.49*3		120	21.7	2.8*1	SUS316LTP							
			60.5	3.9*1	SUS316LTP							
			165.2	7.1*1	SUS316LTP							
	139.8		6.6*1	SUS316LTP								
クラッドスラリ濃縮器加熱器 ～ クラッドスラリ濃縮器	0.49*3	120	114.3	6.0*1	SUS316LTP	変更なし						
			クラッドスラリ濃縮器 ～ クラッドスラリ濃縮器デミスタ	0.49*3	120		139.8	6.6*1	SUS316LTP	変更なし		

(続き)

変更前						変更後						
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
機器ドレン処理系	クラッドスラリ濃縮器デミスタ ～ クラッドスラリ濃縮器復水器	0.49*3	120	139.8	6.6*1	SUS316LTP	機器ドレン処理系	変更なし				
	クラッドスラリ濃縮器復水器 ～ 機器ドレン処理水タンク A 入口管合流点	静水頭	65	27.2	2.9*1	SUS304TP		変更なし				
	クラッドスラリ濃縮器 ～ クラッドスラリ濃縮器循環 ポンプ入口管合流点	0.49*3	120	165.2	7.1*1	SUS316LTP		変更なし				
	クラッドスラリ濃縮器 循環ポンプ入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク A	0.49*3	120	60.5	3.9*1	SUS316LTP		変更なし				
	クラッドスラリタンク A 入口管分岐点 ～ クラッドスラリタンク B (クラッドスラリ濃縮器側)	0.49*3	120	60.5	3.9*1	SUS316LTP		変更なし				
								変更なし				
								変更なし				

注記 *1：公称値を示す。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器機器ドレンサンプ排出管（格納容器機器ドレンサンプから原子炉棟機器ドレンサンプまで）」と記載。

*3：S I 単位に換算したものの。

*4：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（ベデスタル排水系）と兼用する。

*5：重大事故等時における使用時の値を示す。

*6：エルボにあつては、管と同等以上の厚さのものを選定。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年11月12日付け51資庁第12241号にて認可された工事計画の添付書類「IV-1-5 液体固体廃棄物処理系配管の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-3-5 配管」による。

*8：エルボを示す。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉棟機器ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”吐出管（原子炉棟機器ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”より廃液収集タンクまで）」と記載。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「タービン建屋機器ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”吐出管（タービン建屋機器ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”より廃液収集タンクまで）」と記載。

*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃棄物処理棟機器ドレンサンプポンプ吐出管（機器ドレンサンプポンプ“A” “B”より廃液収集タンクまで）」と記載。

*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液収集ポンプ吐出管（廃液収集ポンプより廃液フィルタ“A” “B”まで）」と記載。

- *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液フィルタ“A” “B”より廃液脱塩器まで」と記載。
- *14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液フィルタ“B”出口管より床ドレンフィルタ出口管まで」と記載。
- *15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液脱塩器より廃液サンプルタンク“A” “B”まで」と記載。
- *16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液サンプルポンプ“A” “B”吸込管（廃液サンプルタンク“A” “B”より廃液サンプルポンプ“A” “B”まで）」と記載。
- *17：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液サンプルポンプ“A” “B”吐出管（廃液サンプルポンプ“A” “B”より復水貯蔵タンクまで）」と記載。
- *18：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液収集ポンプ出口分岐管より電磁ろ過器供給タンクまで」と記載。
- *19：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済樹脂貯蔵タンク（B）デカント水出口第1元弁より電磁ろ過器供給タンクまで」と記載。
- *20：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済樹脂貯蔵タンク（C）デカント水出口第1元弁より使用済樹脂貯蔵タンク（B）デカント水出口管合流点まで」と記載。
- *21：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和58年12月13日付け58資庁第15229号にて認可された工事計画の添付書類「V-2-2-1-1 機器ドレン処理系の強度計算書」のうち、「V-2-2-1-1- (12) 主配管」による。
- *22：記載の適正化を行う。既工事計画書には「機器ドレン処理水タンク（A）入口管三方弁より機器ドレン処理水タンク（B）まで」と記載。
- *23：記載の適正化を行う。既工事計画書には「機器ドレン処理水タンク（A）より廃液脱塩器入口管まで」と記載。
- *24：記載の適正化を行う。既工事計画書には「凝縮水収集ポンプ吐出管（凝縮水収集ポンプより廃液収集ポンプ吐出管まで）」と記載。
- *25：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *26：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済樹脂貯蔵タンク（B）入口管分岐点より使用済樹脂貯蔵タンク（C）まで」と記載。

変更前						変更後						
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材料	
床ドレン処理系	—					格納容器床ドレンサンプル導入管 *4	0.52 0.76*5	105 200*5	89.1	7.6*2, *6	SUS316TP	
	格納容器床ドレン サンプルスリット ～ 格納容器床ドレン 配管分岐点 *3	0.52*1	105	89.1	5.5*2, *11	SUS304TP*11	格納容器床ドレン サンプルスリット ～ 格納容器床ドレン 配管分岐点 *4	変更なし 0.76*5	変更なし 200*5	変更なし*6, *7		
				89.1	7.6*2	SUS316TP				89.1	7.6*2	SUS316TP
	—						変更なし					
	格納容器床ドレン 配管分岐点 ～ 原子炉格納容器 *3	0.52*1	105	89.1	7.6*2	SUS316TP	変更なし					
	原子炉格納容器 ～ 弁 G13-F129 *3	0.52*1	105	89.1*8, *9	7.6*2, *8, *9	STPT42*8, *9	変更なし					
				89.1	7.6*2, *6	SUS316TP	変更なし					
	弁 G13-F129 ～ 原子炉棟床ドレンサンプル *3	0.27*1	79	89.1	5.5*2	STPT42	変更なし					
	原子炉棟床ドレンサンプルポンプ ～ 床ドレン収集タンク *10	1.03*1	65	76.3	5.2*2	STPT42	変更なし					
				114.3	6.0*2	STPT42	変更なし					
				114.3*11	6.0*2, *11	STPT410*11	変更なし					
	タービン建屋床ドレン サンプルポンプ ～ 床ドレン収集タンク *12	1.03*1	65	76.3	5.2*2	STPT42	変更なし					
89.1				5.5*2	STPT42	変更なし						
114.3				6.0*2	STPT42	変更なし						

(続き)

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材 料	
床 ド レ ン 処 理 系	*13 廃棄物処理棟 床ドレンサンプポンプ ～ 床ドレン収集タンク	1.03*1	65	48.6	5.1*2	STPT42	変更なし					
				76.3	5.2*2	STPT42						
	床ドレン収集タンク ～ 床ドレン収集ポンプ	1.03*1	65	114.3	6.0*2	STPT42	変更なし					
	*14 床ドレン収集ポンプ ～ 床ドレン収集ポンプ吐出管合流点	1.42*1	65	114.3*11	6.0*2, *11	STPT410*11						
				114.3	6.0*2	STPT42						
				1.32*1	90	114.3	6.0*2	STPT42	撤去			
	139.8	6.6*2	STPT42									
	*20 床ドレン収集ポンプ吐出管分岐点 ～ 廃液収集ポンプ吐出管合流点	1.42*1	65	114.3	6.0*2	STPT42	撤去					
				1.32*1	90	114.3						
	*15 床ドレン収集ポンプ吐出管合流点 ～ 床ドレンサンプルタンク	1.32*1	90	139.8	5.0*2	SUS304TP	変更なし	撤去				
				114.3	4.0*2	SUS304TP						
				65	114.3	4.0*2		SUS304TP				
		—						1.42	65	114.3	4.0*2	SUS304TP
	*16 床ドレンサンプルタンク ～ 床ドレンサンプルポンプ	1.03*1	65	114.3	6.0*2	STPT42	変更なし					
				114.3*11	6.0*2, *11	STPT410*11						

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径*2 (mm)	厚さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材 料
床 ド レ ン 処 理 系	*17 床ドレンサンプルポンプ ～ 廃液中和タンク入口管	1.03*1	65	114.3	6.0*2	STPT42	変更なし				
				114.3	6.0*2	SUS316TP					
	*19 床ドレンサンプルポンプ 出口分岐点 (床ドレン収集タンク戻り) ～ 床ドレン収集タンク	1.03*1	65	114.3	6.0*2	STPT42	変更なし				
	廃棄物処理建屋床ドレン サンプポンプ A ～ 床ドレン収集タンク 入口管合流点	1.03*1	65	60.5	5.5*2	STPT42					
				48.6	5.1*2	STPT42					
				76.3	5.2*2	STPT42					
	廃棄物処理建屋床ドレン サンプポンプ B ～ 廃棄物処理建屋床ドレン サンプポンプ A 出口管合流点	1.03*1	65	76.3*11	5.2*2, *11	STPT410*11	変更なし				
				60.5	5.5*2	STPT42					
				48.6	5.1*2	STPT42	変更なし				

注記 *1：S I 単位に換算したもの。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器床ドレンサンプ排出管（格納容器床ドレンサンプから原子炉棟床ドレンサンプまで）」と記載。

*4：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（ペダスタル排水系）と兼用する。

*5：重大事故等時における使用時の値を示す。

*6：エルボにあつては、管と同等以上の厚さのものを選定。

*7：本設備は既存の設備である。

*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年11月12日付け51資庁第12241号にて認可された工事計画の添付書類「IV-1-5 液体固体廃棄物処理系配管の規格計算書」のうち、「III-1-3-5 配管」による。

*9：エルボを示す。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉棟床ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”吐出管（原子炉棟床ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”より床ドレン収集タンクまで）」と記載。

*11：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「タービン建屋床ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”吐出管（タービン建屋床ドレンサンプポンプ“A” “B” “C” “D”より床ドレン収集タンクまで）」と記載。

- *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃棄物処理棟床ドレンサンプポンプ吐出管（床ドレンサンプポンプ“A” “B”より床ドレン収集タンクまで）」と記載。
- *14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレン収集ポンプ吐出管（床ドレン収集ポンプより床ドレンフィルタまで）」と記載。
- *15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレンフィルタより床ドレンサンプルタンク“A” “B”まで」と記載。
- *16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレンサンプルポンプ“A” “B”吸込管（床ドレンサンプルタンク“A” “B”より床ドレンサンプルポンプ“A” “B”まで）」と記載。
- *17：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレンサンプルポンプ“A” “B”吐出管（床ドレンサンプルポンプ“A” “B”より廃液中和タンク入口管まで）」と記載。
- *18：当該配管については、主管管に該当しないため、記載の適正化を行う。
- *19：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレンサンプルポンプ出口分岐管（床ドレン収集タンク戻り）より床ドレン収集タンク入口管まで」と記載。
- *20：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレン収集ポンプ吐出管より廃液収集ポンプ吐出管まで」と記載。

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
固体 廃棄物 処理系	*3 廃液フィルタ逆洗水受タンク ～ 廃液フィルタ逆洗水ポンプ	1.03*1	65	60.5	3.9*2	SUS304TP	固体 廃棄物 処理系	変更なし				
				60.5	5.5*2	STPT42						
	*4 廃液フィルタ逆洗水ポンプ ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク入口管	1.03*1	65	48.6	5.1*2	STPT42						変更なし
	*5 廃液スラッジ貯蔵タンク入口管 ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク	1.03*1	65	114.3	6.0*2	STPT42						変更なし
	床ドレンフィルタ逆洗水受タンク ～ 床ドレンフィルタ逆洗水ポンプ	1.03*1	65	60.5	3.9*2	SUS304TP						変更なし
				60.5	5.5*2	STPT42						
	床ドレンフィルタ逆洗水ポンプ ～ 床ドレンスラッジ貯蔵タンク	1.07*1	65	48.6	5.1*2	STPT42						変更なし
		1.03*1	65	48.6	5.1*2	STPT42						

(続き)

		変 更 前					変 更 後						
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
固体廃棄物処理系	原子炉冷却材浄化系	*6 原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器 逆洗水受タンク ～ 原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ	1.02*6	66*6	60.5*6	3.9*2, *6	STPT42*6	変更なし					
		*6 原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ ～ 燃料プール冷却浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水 移送配管合流点	1.03*6	65*6	34.0*6	4.5*2, *6	STPT42*6	変更なし					
					48.6*6	5.1*2, *6	STPT42*6						
		*6 燃料プール冷却浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水 移送配管合流点 ～ 使用済粉末樹脂 貯蔵タンク入口管	1.03*6	65*6	60.5*6	5.5*2, *6	STPT42*6	変更なし					
	燃料プール冷却浄化系	*6 フィルタ脱塩器 逆洗水受タンク ～ フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ	0.98*6	94*6	60.5*6	3.9*2, *6	SUS304TP*6	変更なし					
					60.5*6	5.5*2, *6	SUS304TP*6						
		*6 フィルタ脱塩器 逆洗水移送ポンプ ～ 原子炉冷却材浄化系 フィルタ脱塩器逆洗水 移送配管合流点	1.03*6	65*6	34.0*6	4.5*2, *6	STPT42*6	変更なし					
					48.6*6	5.1*2, *6	STPT42*6						

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
固体 廃棄物 処理系	*7 使用済粉末樹脂貯蔵タンク入口管 ～ 使用済粉末樹脂貯蔵タンク	1.03*1	65	114.3	6.0*2	STPT42	変更なし				
	使用済樹脂貯蔵タンク ～ 使用済樹脂ポンプ	1.03*1	65	48.6	3.7*2	SUS304TP	変更なし				
				48.6	5.1*2	STPT42					
	*8 廃液スラッジ貯蔵タンク ～ 廃液スラッジポンプ	1.03*1	65	48.6	3.7*2	SUS304TP	変更なし				
				48.6	5.1*2	STPT42					
	床ドレンスラッジ貯蔵タンク ～ 床ドレンスラッジポンプ	1.03*1	65	48.6	3.7*2	SUS304TP	変更なし				
				48.6	5.1*2	STPT42					
	*9 使用済粉末樹脂貯蔵タンク ～ 使用済粉末樹脂ポンプ	1.03*1	65	48.6	3.7*2	SUS304TP	変更なし				
				48.6	5.1*2	STPT42					
	*10 使用済樹脂ポンプ ～ 廃液スラッジ貯蔵タンク入口管 合流点 (次頁へ続く)	1.96*1	65	34.0*6	4.5*2、*6	STPT410*6	変更なし	変更なし			
34.0				4.5*2	STPT42						
1.03*1		65	34.0	4.5*2	STPT42	(次頁へ続く)	撤去				
						固体 廃棄物 処理系					

(続き)

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
固体廃棄物処理系	(前頁からの続き)	1.03*1	65	34.0*6	4.5*2, *6	STPT410*6	(前頁からの続き)	変更なし				
		—						1.03	65	60.5	5.5*2	STPT410
	*11 廃液スラッジポンプ ～ 使用済樹脂ポンプ吐出管合流点	1.81*1	65	34.0	4.5*2	STPT42	変更なし					
		1.96*1	65	34.0	4.5*2	STPT42						
	*12 床ドレンスラッジポンプ ～ 使用済樹脂ポンプ吐出管合流点	1.81*1	65	34.0	4.5*2	STPT42	変更なし					
		1.96*1	65	34.0	4.5*2	STPT42						
	*13 使用済粉末樹脂ポンプ ～ 使用済粉末樹脂貯蔵タンク入口管	1.96*1	65	34.0	4.5*2	STPT42	変更なし	撤去				
				34.0*6	4.5*2, *6	STPT410*6		変更なし				
		—						1.03	65	34.0	4.5*2	STPT410
		—								60.5	5.5*2	STPT410

(続き)

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*2 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
固体廃棄物処理系	*14 濃縮廃液貯蔵タンク ～ 濃縮廃液ポンプ	100	89.1	4.0*2	SUS316LTP	固体廃棄物処理系	変更なし	1.03*1	89.1	4.0*2	SUS316LTP
		65	89.1	4.0*2	SUS316LTP						
			60.5	3.9*2	SUS316LTP						
	*15 濃縮廃液ポンプ ～ 濃縮廃液ポンプ出口管分岐部	2.01*1	65	48.6	3.7*2				SUS316LTP	変更なし	
		1.03*1	65	48.6	3.7*2				SUS316LTP	撤去	
	濃縮廃液計量タンク ～ アウトドラムミキサー	1.03*1	65	48.6	5.1*2				STPT42	撤去	

注記 *1：S I 単位に換算したもの。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液フィルタ逆洗水ポンプ”A” ”B”吸込管（廃液フィルタ逆洗水受タンク”A” ”B”より廃液フィルタ逆洗水ポンプ”A” ”B”まで）」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液フィルタ逆洗水ポンプ”A” ”B”吐出管（廃液フィルタ逆洗水ポンプ”A” ”B”より廃液スラッジ貯蔵タンク入口管まで）」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液スラッジ貯蔵タンク”A” ”B”入口管」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済粉末樹脂貯蔵タンク”A” ”B”入口管」と記載。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液スラッジポンプ”A” ”B”吸込管（廃液スラッジ貯蔵タンク”A” ”B”より廃液スラッジポンプ”A” ”B”まで）」と記載。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済粉末樹脂ポンプ吸込管（使用済粉末樹脂貯蔵タンク”A” ”B”より使用済粉末樹脂ポンプまで）」と記載。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済樹脂ポンプ吐出管（使用済樹脂ポンプより遠心分離機”A” ”B”まで）」と記載。

*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液スラッジポンプ”A” ”B”吐出管（廃液スラッジポンプ”A” ”B”より使用済樹脂ポンプ吐出管まで）」と記載。

*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床ドレンスラッジポンプ吐出管（床ドレンスラッジポンプより使用済樹脂ポンプ吐出管まで）」と記載。

*13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「使用済粉末樹脂ポンプ吐出管（使用済粉末樹脂ポンプより使用済樹脂ポンプ吐出管まで）」と記載。

*14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「濃縮廃液貯蔵タンク A, B, C より濃縮廃液ポンプ A, B, C まで」と記載。

*15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「濃縮廃液貯蔵ポンプ A, B, C より濃縮廃液計量タンクまで」と記載。

(14) 減容・固化設備に係る焼却装置，熔融装置，圧縮装置，アスファルト固化装置，セメント固化装置，ガラス固化装置又はプラスチック固化装置に係る主要機器のうち(1)から(13)までに掲げるもの以外の主要機器の名称，種類，容量又は処理能力，主要寸法，材料及び個数並びに原動機の種類，出力及び個数

			変更前	変更後	
名 称			遠心分離機	撤去	
本 体	種 類	—	水平ボウル型		
	容 量	m ³ /h/個	 (4.6 ^{*1})		
	主 要 寸 法	た て	mm		1375 ^{*1, *2}
		横	mm		2876.3 ^{*1, *2}
		高 さ	mm		1385 ^{*1, *2}
	材 料	ケ ー ス	—		SUS304
	個 数	—	2		
原 動 機	種 類	—	誘導電動機 ^{*3}		
	出 力	kW/個	22		
	個 数	—	2		

注記 *1：公称値を示す。

*2：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

*4：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和49年6月4日付け49資庁第4363号にて認可された工事計画の添付図面「第3-19図 遠心分離機構造図」による。

			変更前	変更後	
名 称			スラッジコンベヤー	撤去	
本 体	種 類	—	ベルトドライブ型		
	容 量*1	m ³ /h/個	 (12*2)		
	主 要 寸 法	た て	mm		900*2, *3
		横*4	mm		5295*2
		高 さ	mm		1000*2, *3
	材 料	ケ ー ス	—		SUS304
	個 数	—	1*5		
原 動 機	種 類	—	減速機付誘導電動機*6		
	出 力	kW/個	1.5		
	個 数	—	1		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「輸送量」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-20図 スラッジコンベヤー構造図」による。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長」と記載。

*5：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ギヤードモーター」と記載。

			変更前	変更後	
名 称			アウトドラムミキサー		
本 体	種 類	—	たて置円筒形*1		
	容 量*2	m ³ /個	[] (0.5*3)		
	主 要 寸 法	た て	mm	1450*3, *4	
		横	mm	2100*3, *4	
		高 さ*5	mm	1955*3	
	材 料	本 体	—	SS34又はSS41相当 []	
		個 数	—	1	
原 動 機	ミ キ ン グ ス タ ー 用	種 類	—	減速機付誘導電動機*6	
		出 力	kW/個	13*7	
		個 数	—	1	
	オ イ ル ポ ン プ 用 (ゲート開閉)	種 類	—	誘導電動機*8	
		出 力	kW/個	2*7	
		個 数	—	1	
機	集 中 給 油 用	種 類	—	減速機付誘導電動機*6	
		出 力	kW/個	0.25*7	
		個 数	—	2	

撤去

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「処理容量」と記載。

*3：公称値を示す。

*4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-17図 アウトドラムミキサー構造図（その1）」による。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ギヤードモーター」と記載。

*7：S I 単位に換算したもの。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

			変更前	変更後	
名 称			セメントコンベヤー	撤去	
本 体	種 類	—	スクリュードライブ型		
	容 量*1	m ³ /h/個	 (10*2)		
	主 要 寸 法	外 径*3	mm		267.4*2, *4
		全 長	mm		6159*2
	材 料	ス ク リ ュ ー	—		SS41
		ケ ー ス	—		SGP
	個 数	—	1		
原 動 機	種 類	—	減速機付誘導電動機*5		
	出 力	kW/個	1.5		
	個 数	—	1		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「輸送量」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には、内径である「254.2」と記載。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-16図 セメントコンベヤー構造図」による。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ギヤードモーター」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年11月12日付け建建発第120号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-16図 セメントコンベヤー構造図」による。

			変更前	変更後
名 称			ドラムコンベヤー	
本 体	種 類	—	オーバーヘッド型 パワーエンドフリータイプ	
	容 量 (吊 下 げ 能 力)	kg/キャリア	[] (500*1)	
	主 要 寸 法	全 長*2	m	145*1
	材 料	コンベヤー レール	—	SS41
	個 数	—	1	
原	コン ベ ヤ ー	種 類	—	誘導電動機*3
		出 力	kW/個	2.2
		個 数	—	1
動	キ ャ ッ ピ ン グ 装 置 (ト ラ バ ル)	種 類	—	誘導電動機*3
		出 力	kW/個	0.4
		個 数	—	1
機	キ ャ ッ ピ ン グ 装 置 (リ フ ト)	種 類	—	誘導電動機*3
		出 力	kW/個	0.4
		個 数	—	1

注記 *1：公称値を示す。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長（パワーエンドフリーライン）」と記載。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「三相誘導電動機」と記載。

*4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月11日付け建建発第144号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-22図 ドラムコンベヤー構造図」による。

			変更前	変更後	
名 称			ミキサー洗浄タンク A		
本 体	種 類	—	たて置並列円筒形*1		
	容 量	m ³ /個	[] (0.8*2)		
	主 要 寸 法	たて（内寸法）*3	mm	900*2	
		横（内寸法）*4	mm	1800*2	
		本 体 板 厚 さ*5	mm	[] (6*2)	
		平 板（屋 根）厚 さ	mm	6*2, *6	
		高 さ	mm	900*2	
	材 料	本 体	—	SUS304	
個 数	—	1			
原 動 機	種 類	—	減速機付誘導電動機*7		
	出 力	kW/個	0.4		
	個 数	—	1		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「並列円筒形（四脚支持）」と記載。

*2：公称値を示す。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「巾」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「長さ」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ギヤードモーター」と記載。

3 堰その他の設備に係る次の事項

- (2) 原子炉格納容器本体外に設置される流体状の放射性廃棄物を内包する容器からの流体状の放射性廃棄物の施設外への漏えいを防止するために施設する堰（放射性廃棄物運搬容器にあつては、流体状の放射性廃棄物の施設外への漏えいを防止するために施設する設備）の名称、主要寸法、材料及び取付箇所並びに床面及び壁面の塗装の範囲及び材料

			変更前	変更後
名 称			連絡配管路出入口 (中廊下(二階)) *1	撤去
主要寸法	堰の高さ	mm	150以上*2, *5	
床面及び壁面の塗装の範囲*3		—	床面及び床面から堰の高さ以上までの壁面	
材料	堰	—	鉄筋コンクリート	
	床面及び壁面の塗装*3	—	エポキシ樹脂	
取付箇所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	—	
	設 置 床	—	廃棄物処理建屋 EL. 15.80 m*4	
	溢水防護上の 区画番号	—	—	
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(8) 連絡配管路出入口」と記載。

*2：EL. 15.80 mからの高さ。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗装」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「中廊下(二階)」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「15 cm以上」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			サイトバンカ非常用 出入口	撤去
主要 寸法	堰 の 高 さ	mm	150 以上*1, *4	
床面及び壁面の塗装の範囲*2		—	床面及び床面から堰の 高さ以上までの壁面	
材 料	堰	—	鉄筋コンクリート	
	床面及び壁面の塗装*2	—	エポキシ樹脂	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	—	
	設 置 床	—	廃棄物処理建屋 EL. 15.80 m*3	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		

注記 *1：EL. 15.80 mからの高さ。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗装」と記載。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「サイトバンカエリア（二階）」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「15 cm 以上」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			連絡配管路出入口 (廃棄物処理棟ハッチ 室 (二階)) *1	撤去
主要 寸法	堰 の 高 さ	mm	150 以上*2, *5	
床面及び壁面の塗装の範囲*3		—	床面及び床面から堰の 高さ以上までの壁面	
材 料	堰	—	鉄筋コンクリート	
	床面及び壁面の塗装*3	—	エポキシ樹脂	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	—	
	設 置 床	—	廃棄物処理建屋 EL. 15.80 m*4	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「(10) 連絡配管路出入口」と記載。

*2：EL. 15.80 mからの高さ。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「床・壁の塗装」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃棄物処理棟ハッチ室 (二階)」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「15 cm 以上」と記載。

11 補助ボイラーに属する燃料設備

2 燃料貯蔵設備に係る油タンクの種類、容量及び個数

			変 更 前	変 更 後
名 称			重油貯蔵タンク	変更なし
種 類	—		鋼板製円筒堅形	横置円筒形
容 量	kL/個		500* ¹	221 以上 (250* ¹)
個 数	個		1	2

注記 *1：公称値を示す。

(二) 電気設備

3 遮断器

1 種類, 電圧, 電流, 遮断電流及び遮断時間

		変 更 前	変 更 後 ^{*6}
名 称		線路用 275kV 遮断器 ^{*1}	変更なし
種 類	—	屋内用空気しゃ断器	ガス遮断器
電 圧	kV ^{*2}	300	変更なし
電 流	A	4000	変更なし
遮 断 電 流 ^{*3}	kA ^{*4}	31.5 ^{*4}	50
遮 断 時 間 ^{*5}	サイクル ^{*5}	2 ^{*5}	変更なし
個 数 ^{*7}	—	2	変更なし
*7 取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	線路用 275kV 遮断器
	設 置 床	—	275kV 超高压開閉所 EL. 8.20 m ^{*5}
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—

注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「線路用 275KVしゃ断器」と記載。

*2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「KV」と記載。

*3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「しゃ断容量」と記載。

*4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「15,000MVA」と記載。記載内容は設計図書による。

*5: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

*6: 線路用 275kV 遮断器については取替えを実施する。

*7: 核原料物質, 核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律 第 43 条の 3 の 9 第 1 項の規定による工事計画の記載。

2 保護継電装置の種類

	変 更 前	変 更 後 ^{*3}
名 称	線路用 275kV 遮断器（保護継電装置） ^{*1}	変更なし
種 類	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動遮断用^{*2} 275kV 母線保護継電装置^{*2} 275kV 送電線保護継電装置^{*2} 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動遮断用 275kV 母線保護継電装置 275kV 送電線保護継電装置 ・ 警報用 ガス圧力低下警報装置 MCCBトリップ警報装置 電動機過電流警報装置 電動機長時間運転警報装置 欠相警報装置

注記 *1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

*2：記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。

*3：線路用 275kV 遮断器については取替えを実施する。


II 工事工程表

第 1 表 工事工程表

第1表 工事工程表

項目		年月	2020年					2021年			
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
燃料設備	現地工事期間		工事着工：平成30年11月以降 								
	検査可能時期	構造、強度又は漏えいに係る試験をすることができる状態になった時	◇ ※					◇ ※			
		発電用原子炉に燃料体を挿入することができる状態になった時						◇ ※			
		工事の計画に係る全ての工事が完了した時									◇ ※
廃棄設備	現地工事期間		工事着工：平成30年11月以降 								
	検査可能時期	構造、強度又は漏えいに係る試験をすることができる状態になった時	◇ ※					◇ ※			
		発電用原子炉に燃料体を挿入することができる状態になった時						◇ ※			
		工事の計画に係る全ての工事が完了した時									◇ ※
補助ボイラーに属する燃料設備	現地工事期間		工事着工：平成30年11月以降 								
	検査可能時期	構造、強度又は漏えいに係る試験をすることができる状態になった時	◇ ※					◇ ※			
		工事の計画に係る全ての工事が完了した時							◇ ※		

(続き)

項目		年月	2020年					2021年			
			8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
遮断器	現地工事期間		工事着工：平成30年11月以降 								
	検査可能時期	構造，強度又は漏えいに係る試験をすることができる状態になった時	◇ ※					◇ ※			
		工事の計画に係る全ての工事が完了した時							◇ ※		

Ⅲ 変更を必要とする理由を記載した書類

平成 24 年 6 月の核原料物質，核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の改正並びに関連規則等の改正を踏まえ，重大事故等に対処するために必要な施設の整備に伴う変更を行う。

IV 核原料物質，核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条
の3の10第1項の認可の申請をした年月日を記載した書類

当該事業用電気工作物に係る核原料物質，核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の3の10第1項の認可の申請をした年月日は以下の通り。

東海第二発電所

工事計画届出書番号

発室発第 号（平成30年 月 日）

V 添付書類

「原子力発電工作物の保安に関する省令第 15 条第 1 号の規定に基づく指示について」(平成 25 年 7 月 8 日原規技発第 1307081 号・20130628 商第 22 号)により, 原子力規制委員会及び経済産業大臣から添付することを要しない旨指示のあった以下の添付書類については, 添付を省略する。

省略した添付書類

1 燃料設備

- ・燃料設備に係る機器の配置を明示した図面及び系統図
- ・耐震性に関する説明書(支持構造物を含めて記載すること。)
- ・強度に関する説明書(支持構造物を含めて記載すること。)
- ・構造図
- ・使用済燃料貯蔵槽の水位又は漏えいを監視する装置の構成に関する説明書, 検出器の取付箇所を明示した図面並びに計浪輝包囲及び警報動作範囲に関する説明書
- ・使用済燃料貯蔵用容器の密封性を監視する装置の構成に関する説明書, 検出器の取付箇所を明示した図面並びに計測範囲及び警報動作範囲に関する説明書
- ・燃料取扱設備, 新燃料貯蔵設備, 使用済燃料貯蔵設備及び炉外燃料貯蔵設備の核燃料物質が臨界に達しないことに関する説明書
- ・新燃料又は使用済燃料を取扱う機器の燃料集合体の落下防止に関する説明書
- ・使用済燃料運搬用容器, 使用済燃料貯蔵槽, 使用済燃料貯蔵用容器及び炉外燃料貯蔵設備の冷却能力に関する説明書
- ・使用済燃料貯蔵槽の水深及び炉外燃料貯蔵槽遮へいプラグの遮へい能力に関する説明書
- ・品質保証に関する説明書

2 廃棄設備

- ・廃棄設備に係る機器(流体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び自動警報装置を除く。)の配置を明示した図面及び系統図
- ・耐震性に関する説明書(支持構造物を含めて記載すること。)
- ・強度に関する説明書(支持構造物を含めて記載すること。)
- ・構造図
- ・流体状の放射性廃棄物の漏えいの拡大防止能力及び施設外への漏えい防止能力についての計算書
- ・流体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び自動警報装置の構成に関する説明書, 検出器の取付箇所を明示した図面並びに計測範囲及び警報動作範囲に関する説明書
- ・品質保証に関する説明書

3 補助ボイラーに属する燃料設備

- ・ 補助ボイラーに属する燃料系統図
- ・ 補助ボイラーに属する燃料設備の制御方法に関する説明書
- ・ 油タンクの構造図